

## ■ 建学の精神・教育目標

### 本学の「使命・目的」

キリスト教精神により、教育基本法に則り、学術を教授研究し、広い視野と高い見識を養い、文化の向上と社会の福祉に貢献する有為な人間を育成することを目的とします。

盛岡大学						盛岡大学短期大学部
学部	文学部			栄養科学部		
教育目標	<p>(1) 東北の地域に根ざしながら、学術の中心として個性をもった魅力ある大学をめざします。</p> <p>(2) 広い知識と深い専門性をもつとともに、奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力及び国際化時代に対応した実践的応用力を身につけた教養ある善き社会人を育成することをめざします。</p> <p>そして、目標を達成するための建学の精神に基づく具体的な行動原理として、「対話のある学校」を掲げています。</p>			<p>栄養科学部は人間の生命現象について科学的理解を深め、「生命と真理」を尊び、健康、栄養、食に関する専門の知識を授け、社会の福祉に寄与する人材の育成を以下の通りに行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的課程および応用的課程における確実な知識と技術の修得</li> <li>2. 対象者や地域の特性を理解し、人間栄養学に基づくテラーメイドの栄養管理・指導を実践できる力</li> <li>3. コミュニケーション能力を持ち、スタッフの一員として協働して役割を果たすことのできる力</li> <li>4. 人の痛みを理解し、共感し、行動変容を促すことのできる力</li> </ol>		<p>幼児教育科では、保育者としての専門的知識を身につけ実習やボランティアなどを通して実践力を身につけ、幼稚園や保育園等では乳幼児期の子どもたちに対して、施設では障がいや複雑な家庭事情を抱えた児童たちに対して、情熱を持って生きる力を与えることのできる人材の育成を目指しています。</p>
学科	英語文化学科	日本文学科	社会文化学科	児童教育学科	栄養科学科	幼児教育科
教育目標	英語圏の言語や文化についての専門知識と幅広い教養を培い、同時に実践的な英語運用能力を習得し、進展する国際化や情報化社会に即応できる人材を育成します。	日本特有の言語・文学・文化を国際的視野に立って幅広く学び、話す・聞く・書く・読む能力を備え、課題を見出し解決することができる人材を育成します。	文化・社会・歴史の総合的な学修を通じて、国内外の多様な社会や文化を理解し、様々な課題を発見・考察・解決する力を備えた人材を育成します。	幅広い専門的教養と創造性豊かな実践力及び対人関係能力を備え、初等教育・保育に携わる人材を養成します。	食を取り巻く環境をよく理解し、栄養科学と人間栄養学に関して高度な専門的知識と応用力を身につけ、食からの健康づくりの担い手として幅広く活躍できる人材を育成します。	幼児教育及び保育に関する専門的知識を授けるとともに、その実践のために必要な技能を養い、専門の職業に携わる人材を育成します。

※出典：大学・短大案内（H28）、入試ガイド（H28）、本学 HP、文学部教授会資料（R4.2.17 開催分）、栄養科学部教授会資料（H28.2.17 開催分）

## ■盛岡大学 文学部 三つの方針（ポリシー）

文 学 部		
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）【DP】	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）【CP】	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）【AP】
<p>盛岡大学文学部では、キリスト教精神に由来する建学の精神「愛と奉仕」を基本理念としつつ、学則第3条の2に定める「国際社会に対応できる幅広い知識と深い専門性をもち、奉仕の精神を基盤とし、実践力を身につけた教養あるよき社会人を育成する」ことを目的としています。</p> <p>こうした目的のもと、本学部の学位プログラムの課程を修め、所定の単位修得と必修等の条件を充たすことで、下記の能力・資質を身につけた者に対して「学士（文学）」の学位を授与します。</p> <p>(1) 広い知識と深い専門性 自らが学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識や技能の修得を通じて、東北の地域に根ざしつつも多様な世界の人々や社会のあり方について理解を深めていく力を有する者</p> <p>(2) 国際社会に対応した実践的応用力 多様な時代や社会のあり方に広く目を向け、情報ツールを駆使しながら情報収集や情報分析をすることができ、問題を新たに発見したり、それを解決するアイデアを構想したりする思考力や判断力、並びにその成果を他者に伝達する表現力を有する者</p> <p>(3) 奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力 共同生活を営む中で、他者に対する共感的な姿勢を涵養することを通じて、異なる価値観をもつ他人の思いや考えを理解し受け止めながら、自ら主体的に実践する力を有する者</p>	<p>盛岡大学文学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる広い知識と深い専門性・国際社会に対応した実践的応用力・奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力を修得させるため、教養科目、専門科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実験・実技・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。各学科のカリキュラムの体系を示すために、科目間の関連、科目内容の領域及び難易度について、カリキュラムマップや履修モデルを設け、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。</p> <p>教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。</p> <p>1) 教育内容</p> <p>(1) 教養科目では、幅広い教養と基礎的技能の修得を目指し、人間性と社会性を涵養する教育を行います。「キリスト教学Ⅰ」を必修科目とし、地域社会に貢献する「愛と奉仕」の建学の精神を学び、道徳的実践力の基盤を培います。</p> <p>(2) 語学科目では、国際社会を積極的に生きるために必要な能力の向上を目指します。</p> <p>(3) 専門科目では、専門領域の体系に基づき、段階的に選択必修科目等を配し、系統的に4年次の「卒業研究」へと展開し、専門性をより深く身につけます。</p> <p>2) 教育方法</p> <p>(4) 対話のある教育方法を取り入れ、行動原理として掲げる「対話のある学校」を授業においても具現化します。</p> <p>(5) 主体的な学びの力を高めるため、演習科目を中心としてアクティブラーニングを取り入れた教育方法を積極的に実施します。</p> <p>(6) 授業効果調査やFD研修会等を通して、常に改善された教育方法を実践します。</p> <p>3) 評価</p> <p>(7) 学部全体として、学部の卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質を担保する成績評価を行います。</p> <p>(8) 各学科における専門科目の成績は、それぞれの専門領域に特有な尺度に従って評価されます。</p> <p>(9) 各授業科目では客観的な評価基準をそれぞれのシラバスに明記し、それに基づいて厳正に成績を評価します。</p>	<p>盛岡大学文学部は、学則第3条の2に定める人材を育成するために、本学部での学修に対する目的や意欲を有し、高等学校までの学習及び経験を通じての基礎的な知識、身近な問題について自ら考え、その結果を表現できる力を身につけた入学者を求めます。具体的な内容は下記の通りです。</p> <p>また、以上のような入学者を適正に選抜するために、多様な選抜方法を実施します。</p> <p>(1) 高等学校等における各種の学習内容を幅広く理解している。</p> <p>(2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合」や「英語」を通じて、話す・聞く・書く・読むというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。</p> <p>(3) 身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。</p> <p>(4) 学びたい学科の知識や経験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。</p> <p>(5) 入学前教育として求められる、基礎的知識を身につけるための課題に最後まで取り組むことができる。</p>

■盛岡大学 文学部 各学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）【DP】

英語文化学科	日本文学科	社会文化学科	児童教育学科
<p>英語文化学科では、124単位の単位修得と「卒業研究」を含む必修等の条件を充たし、グローバルな視点に立って、幅広い教養と深い専門的知識を修得し、奉仕の精神を基盤とし、実践力を身につけた教養あるよき人材として、下記の力を身につけた者に対して「学士（文学）」の学位を授与します。</p> <p>(1) 広い知識と深い専門性 英語圏の言語や文化についての専門的知識と幅広い国際教養を備え、実践的な英語コミュニケーション能力を身につけ、地域社会のみならず、グローバル情報社会に貢献する力を有する者</p> <p>(2) 国際社会に対応した実践的応用力 世界の多様な人々や社会について、積極的な海外留学等の体験に基づいて理解を深めるとともに、自律的な思考力と判断力をもち、自分の意思を的確に表現し、行動する力を有する者</p> <p>(3) 奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力 国内外を問わず、社会生活を営む中で、他者への共感的な考え方を身につけるとともに、主体的に多様な人々と協調して働き、よりよい社会の実現に寄与する力を有する者</p>	<p>日本文学科では、124単位の単位修得と「卒業研究」を含む必修等の条件を充たし、変化の激しい社会に対応できる広い知識と深い専門性、主体的に生き抜くうえで必要とする国際化時代に対応した実践的応用力、奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力を身につけた教養あるよき人材として、下記の力を身につけた者に対して「学士（文学）」の学位を授与します。</p> <p>(1) 広い知識と深い専門性 時代を超えて人々の心を伝える日本の言語・文学・文化を世界的視点と地域的視点から幅広く理解し、それぞれの領域における課題を総合的に捉え直すとともに、これからの社会に対応できる広い知識と深い専門性を有する者</p> <p>(2) 国際社会に対応した実践的応用力 国際社会における日本独自の言語・文学・文化のあり方を考察するうえで必要な、思考力・判断力・表現力を身につけるとともに、これからの社会を主体的に生き抜くために、国際社会に対応した実践的応用力を有する者</p> <p>(3) 奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力 日本の言語・文学・文化を通した学びをもとに、変化の激しい社会の中で主体性を発揮し、多様な価値観をもつ人々と協力して学ぶ能力を身につけるとともに、奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力を有する者</p>	<p>社会文化学科では、124単位の単位修得と「卒業研究」を含む必修等の条件を充たし、国際社会に対応できる幅広い知識と深い専門性をもち、奉仕の精神を基盤とし、実践力を身につけた教養あるよき人材として、下記の力を身につけた者に対して「学士（文学）」の学位を授与します。</p> <p>(1) 広い知識と深い専門性 文化・社会・歴史の各領域に関する総合的な知見を身につけ、それらの学問領域を今日的な視点から領域横断的に捉え直すとともに、自らの専門領域に関する深い見識を身につけることを通じて、これからの社会に自律的に対応できる知識や技能を有する者</p> <p>(2) 国際社会に対応した実践的応用力 多様な時代や社会のあり方に世界的視点と地域的視点とから成る複眼的な眼差しを向け、多様な情報ツールを駆使しつつ問題を新たに発見するとともに、それを解決するアイデアを構想する思考力や判断力、並びにその成果を他者に伝達する表現力を有する者</p> <p>(3) 奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力 大学生活のみならず、国際社会並びに地域社会の人々との交流を深める中で、他者に対する共感的な姿勢を涵養し、異なる価値観をもつ他人の思いや考えを理解し受け止めながら、自ら主体的に実践を展開する力を有する者</p>	<p>児童教育学科では、文学部の卒業認定・学位授与の方針を基盤とし、124単位の単位修得と「卒業研究」を含む必修等の条件を充たし、次世代を担う子どもたちの教育・保育に貢献しうる幅広い専門的教養、教育・保育基礎力、教育・保育実践力、対人関係能力を身につけた者に対して「学士（文学）」の学位を授与します。</p> <p>(1) 幅広い専門的教養 教員・保育士に必要な豊かで幅広い専門的教養を備え、多様で複雑化している現代の教育・保育を総合的な視点で捉える力を有する者</p> <p>(2) 教育・保育基礎力 教員・保育士の基礎となる課題発見力、論理的・批判的・内省的思考力、問題解決力等の基礎力を有する者</p> <p>(3) 教育・保育実践力 教員・保育士として必要な教科及び領域に関する知識と技能を身につけ、それらを実践する力を有する者</p> <p>(4) 対人関係能力 教員・保育士として必要な共感的理解力、自己表現力、集団指導力、チームワーク力等の対人関係能力を有する者</p>

■盛岡大学 文学部 各学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）【CP】

英語文化学科	日本文学科	社会文化学科	児童教育学科
<p>英語文化学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる広い知識と深い専門性・国際社会に対応した実践的応用力・奉仕の精神を基盤とする高い道徳的实践力を修得させるため、教養科目、専門科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習などを適切に組み合わせた授業を開講します。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連、専門科目の各領域（グローバル・コミュニケーション領域、言語学領域、文化・文学領域）の目標及び難易度について、カリキュラムマップや履修モデルを設け、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。</p> <p>教育内容、教育方法、評価については以下のように定めます。</p> <p>1) 教育内容</p> <p>(1) 教養科目では、幅広い教養と基礎的技術の修得を目指し、人間性と社会性を涵養するため、語学、体育、情報、生涯学習、専門基礎を学びます。「キリスト教学Ⅰ」を必修科目とし、地域社会に貢献する「愛と奉仕」の建学の精神を学び、道徳的実践力の基盤を培います。</p> <p>(2) 専門科目では、1年次配当として「基幹科目」、2年次配当として「展開科目」、3年次配当として「演習科目」を設置し、段階的に高度な専門知識・技能を身につけます。</p> <p>英語コミュニケーション科目では、英語の4技能の基礎的な能力の修得を踏まえて、高度な英語力の向上を目指します。</p> <p>専門領域科目では、各専門領域の目標と体系に基づき、段階的に選択必修科目を配し、系統的に4年次配当の「卒業研究」へと学修を展開し、専門性をより深く身につけます。</p> <p>(3) 協定大学における交換派遣留学や短期英語研修などの海外留学を、積極的に奨励します。</p> <p>2) 教育方法</p> <p>(4) 対話のある教育方法を取り入れ、行動原理として</p>	<p>日本文学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる広い知識と深い専門性・国際社会に対応した実践的応用力・奉仕の精神を基盤とする高い道徳的实践力を修得させるため、教養科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習等を適切に組み合わせた授業を開講します。学科のカリキュラムの体系を示すために、科目間の関連、科目内容の領域及び難易度について、カリキュラムマップや履修モデルを設け、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。</p> <p>教育内容、教育方法、評価については以下のように定めます。</p> <p>1) 教育内容</p> <p>(1) 教養科目では、幅広い教養と基礎的技術の修得を目指し、人間性と社会性を涵養する教育を行います。「キリスト教学Ⅰ」を必修科目とし、地域社会に貢献する「愛と奉仕」の建学の精神を学び、道徳的実践力の基盤を培います。</p> <p>また、本学科の特性に鑑み「日本語文章作法」「日本語音声表現法」を必修科目としています。</p> <p>(2) 語学科目では、学習者の興味関心に基づいて学習できるように「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」の選択科目を配置し、国際社会を積極的に生きるために必要な能力の向上を目指します。</p> <p>(3) 専門科目では、「日本語学」「日本文学」「日本文化」「漢文学」の専門領域の体系に基づき、段階的に必修科目、選択必修科目を配置し、系統的に4年次の「卒業研究」へと展開し、専門性をより深く身につけます。</p> <p>2) 教育方法</p> <p>(4) 対話のある教育方法を取り入れ、行動原理として掲げる「対話のある学校」を授業においても具現化します。</p> <p>(5) 主体的な学びの力を高めるため、演習科目を中心としてアクティブラーニングを取り入れた教育</p>	<p>社会文化学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる広い知識と深い専門性・国際社会に対応した実践的応用力・奉仕の精神を基盤とする高い道徳的实践力を修得させるため、教養科目、専門科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、本学科のカリキュラムの体系を適切に把握するために、科目間の関連、専門科目の各領域（文化・社会・歴史）の内容及び難易度について、カリキュラムマップや履修モデルを設け、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。</p> <p>教育内容、教育方法、評価については以下のように定めます。</p> <p>1) 教育内容</p> <p>(1) 教養科目では、幅広い教養と基礎的技術の修得を目指し、人間性と社会性を涵養する教育を行います。また、「キリスト教学Ⅰ」を必修科目とし、地域社会に貢献する「愛と奉仕」の建学の精神を学び、道徳的実践力の基盤を培います。</p> <p>(2) 語学科目では、国際社会を積極的に生きるために必要な能力の向上を図るとともに、多様な文化のあり方に目を開く姿勢を身につけるために、「英語」はもとより「ドイツ語」「フランス語」「中国語」といった複数の語学関連科目を開講します。</p> <p>(3) 専門科目では、1年次配当として「基盤科目」、2年次配当として「展開科目」、3年次配当として「専門研究科目」並びに「専門演習科目」を設置するとともに、段階的に選択必修科目を指定することによって、4年次配当の「卒業研究」へと系統的に学修を展開し、専門性をより深く身につけます。</p> <p>2) 教育方法</p> <p>(4) 対話のある教育方法を取り入れ、行動原理として掲げる「対話のある学校」を授業においても具現化します。</p> <p>(5) 専門演習科目を中心としてアクティブラーニン</p>	<p>児童教育学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる幅広い専門的教養、教育・保育基礎力、教育・保育実践力、対人関係能力を修得させるために、以下のようにカリキュラムを編成します。</p> <p>教育内容、教育方法、評価については以下のように定めます。</p> <p>1) 教育内容</p> <p>(1) 児童教育コースと保育・幼児教育コース毎に教育課程を編成します。児童教育コースは小学校や幼稚園等において、保育・幼児教育コースは保育施設や幼稚園等において、それぞれ求められる知識・技能の修得のための専門科目を段階的に配置します。</p> <p>(2) 幅広い専門的教養の修得のために、教養科目のほか、専門分野ユニット科目に基礎科目群及び発展科目群を配置し、どちらのコースでも履修できるようにします。</p> <p>(3) 教育・保育基礎力、教育・保育実践力、対人関係能力を修得させるために、専門科目を基幹科目と専門分野ユニット科目に分け、体系に基づき段階的に必修科目や選択必修科目等を配置し、4年次の「卒業研究」へと展開します。</p> <p>基幹科目では、大学での学修に必要な基礎的スキルを修得する科目、並びに教員・保育士に求められる実践的な知識・技能等や人間関係力を修得するための講座と実習科目を配置します。</p> <p>専門分野ユニット科目では、「学校教育系」「基礎教育系」「児童英語教育系」「心理系」「表現系」「保育・幼児教育系」の6つのユニット（系）に体系化された科目を「基礎科目群」「発展科目群」「卒業研究基礎科目群」「卒業研究」の4段階に分け、それぞれに必修科目や選択必修科目等を配置します。</p> <p>(4) 1年次からすべての学年において、地域の小学校や幼稚園等での体験的学修ができるようにしま</p>

<p>掲げる「対話のある学校」を授業においても具現化します。</p> <p>(5) 主体的な学びの力を高めるため、演習科目を中心としてアクティブラーニングを取り入れた教育方法を積極的に実施します。</p> <p>(6) 授業効果調査やFD研修会等を通して、常に改善された教育方法を実践します。</p> <p>(7) 英語コミュニケーション科目では、入学後のプレイスメントテストと各学期末のアチーブメントテストの実施によって、習熟度別クラスを編成し、より効果的・機能的な授業を展開します。</p> <p>(8) 専門領域科目では、専門知識の修得だけでなく、プレゼンテーションソフトなどを使って能動的・創造的に発表する授業を行いながら「卒業研究」につなげ、指導教員のもとで原則として週一回行う卒論ゼミを通して、4年間の学びの集大成を図ります。</p> <p>3) 評価</p> <p>(9) 学科全体として、学科の卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質を担保する成績評価を行うと同時に、科目間において成績評価の要件・基準・平均に大きなばらつきが生じないように努めます。</p> <p>(10) 英語コミュニケーション科目と専門領域科目の成績は、それぞれの科目に特有な尺度に従って評価されます。</p> <p>(11) 各授業科目では客観的な評価基準をそれぞれのシラバスに明記し、それに基づいて厳正に成績を評価します。</p>	<p>方法を積極的に実施します。</p> <p>(6) 授業効果調査やFD研修会等を通して、常に改善された教育方法を実践します。</p> <p>3) 評価</p> <p>(7) 学科全体として、学科の卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質を担保する成績評価を行うと同時に、科目間において成績評価の要件・基準・平均に大きなばらつきが生じないように努めます。</p> <p>(8) 各領域における専門科目の成績は、それぞれの専門分野に特有な尺度に従って評価されます。</p> <p>(9) 各授業科目では客観的な評価基準をそれぞれのシラバスに明記し、それに基づいて厳正に成績を評価します。</p>	<p>グを取り入れた教育方法を可能な限り採用するとともに、校外実習やフィールドワークを積極的に実施することを通じて、能動的かつ主体的な学びの力を高めることを目指します。</p> <p>(6) 授業効果調査やFD研修会等を通して、常に改善された教育方法を実践します。</p> <p>3) 評価</p> <p>(7) 学科全体として、学科の卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質を担保する成績評価を行うと同時に、文化的領域・社会的領域・歴史的領域の三つの領域間において、成績評価の要件・基準・平均に大きなばらつきが生じないように努めます。</p> <p>(8) 各領域における専門科目の成績は、それぞれの専門分野に特有な尺度に従って評価されます。</p> <p>(9) 各授業科目では客観的な評価基準をそれぞれのシラバスに明記し、それに基づいて厳正に成績を評価します。</p>	<p>す。</p> <p>2) 教育方法</p> <p>(5) 対話のある教育方法を取り入れ、行動原理として掲げる「対話のある学校」を異学年で学び合う「児童教育講座」「幼児教育講座」等の授業においても具現化します。</p> <p>(6) 主体的な学びの力を高めるため、演習科目を中心としてアクティブラーニングを取り入れた教育方法を積極的に実施します。</p> <p>(7) 授業効果調査やFD研修会、実践事例報告会等を通して、常に改善された教育方法を実践します。</p> <p>3) 評価</p> <p>(8) 学科全体として、学科の卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質を担保する成績評価を行います。</p> <p>(9) 学科における専門科目の成績は、それぞれの専門領域及びユニットに適合した尺度に従って評価します。</p> <p>(10) 各授業科目では客観的な評価基準をそれぞれのシラバスに明記し、それに基づいて厳正に成績を評価します。</p>
<p style="text-align: center;"><b>英語文化学科</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>日本文学科</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>社会文化学科</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>児童教育学科</b></p>

■盛岡大学 文学部 各学科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）【AP】

英語文化学科	日本文学科	社会文化学科	児童教育学科
<p>英語文化学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。</p> <p>(1) 高等学校等における各種の学習内容を幅広く理解している。</p> <p>(2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合」や「英語」を通じて、話す・聞く・書く・読むというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。</p> <p>(3) 英語に関する身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。</p> <p>(4) 英語圏の言語や文化について学び、地域社会のみならず、グローバル情報社会に貢献する意欲がある。</p> <p>(5) 入学前教育として求められる、基礎的知識を身につけるための課題に最後まで取り組むことができる。</p>	<p>日本文学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。</p> <p>(1) 高等学校等における各種の学習内容を幅広く理解している。</p> <p>(2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合」や「英語」を通じて、話す・聞く・書く・読むというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。</p> <p>(3) 日本文学に関する身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。</p> <p>(4) 本学科で学ぶ専門領域の知識や情報を、社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。</p> <p>(5) 入学前教育として求められる、基礎的知識を身につけるための課題に最後まで取り組むことができる。</p>	<p>社会文化学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。</p> <p>(1) 高等学校等における各種の学習内容を幅広く理解している。</p> <p>(2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合」や「英語」を通じて、話す・聞く・書く・読むというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。</p> <p>(3) 社会や文化に関する身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。</p> <p>(4) 文化・社会・歴史の三領域に関する専門的な知識を身につけるとともに、それを社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。</p> <p>(5) 入学前教育として求められる、基礎的知識を身につけるための課題に最後まで取り組むことができる。</p>	<p>児童教育学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。</p> <p>(1) 高等学校等における各種の学習内容を幅広く理解している。</p> <p>(2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合」や「英語」を通じて、話す・聞く・書く・読むというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。</p> <p>(3) 教育・保育に関する身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。</p> <p>(4) 初等教育や保育に興味や関心があり、本学科で学ぶ知識や経験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。</p> <p>(5) 入学前教育として求められる、基礎的知識を身につけるための課題に最後まで取り組むことができる。</p>

## ■盛岡大学 栄養科学部 三つの方針（ポリシー）

栄 養 科 学 部		
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）【DP】	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）【CP】	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）【AP】
<p>盛岡大学栄養科学部では、キリスト教精神に由来する建学の精神「愛と奉仕」を基本理念としつつ、学則第3条の2第2項に定める「人間の生命現象について科学的理解を深め、『生命と真理』を尊び、健康、栄養、食に関する専門的知識を授け、社会の福祉に寄与する人材を育成する」ことを目的としています。</p> <p>こうした目的のもと、本学部の学位プログラムの課程を修め、所定の単位修得と必修等の条件を充たし、下記的能力・資質を身につけた者に対して「学士（栄養科学）」の学位を授与します。</p> <p>(1) 専門的知識や技能の活用力 人間栄養学に基づいた健康・栄養・食に関する専門的知識と技能を修得し、能動的に課題を探求しながら、積極的に活用することのできる力を有する者</p> <p>(2) 社会に対応した実践的応用力 社会・環境の変化や地域の特性を踏まえたうえで健康・栄養・食に関する課題を捉え、専門的知識と技能を駆使することにより、栄養管理・指導を実践する力を有する者</p> <p>(3) コミュニケーション力を基盤とする協働・実践力 健康・栄養・食に関する知識や技能を活用することのできるコミュニケーション能力を培い、他職種と連携・協働して役割を果たすことができる実践力を有する者</p>	<p>盛岡大学栄養科学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる力を修得させるため、教養科目、専門科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実験・実技・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連、科目内容の領域及び難易度について、カリキュラムマップや履修モデルを設け、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。</p> <p>教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。</p> <p>1) 教育内容</p> <p>(1) 教養科目では、幅広い教養と基礎的技能の修得を目指し、人間性と社会性を涵養する教育を行います。「キリスト教学Ⅰ」を必修科目とし、地域社会に貢献する「愛と奉仕」の建学の精神を学び、道徳的実践力の基盤を培います。</p> <p>(2) 語学科目では、国際化社会を積極的に生きるために必要な能力の向上を目指します。</p> <p>(3) 専門科目では、専門関連基礎科目から「卒業研究」に至るまで、段階的に授業科目を配し、健康・栄養・食に関する基礎的・専門的知識や栄養管理・指導ができる能力が身につくよう、実践的かつ体系的に学びます。</p> <p>2) 教育方法</p> <p>(4) 学びの力を高めるため、演習科目を中心としてアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施します。</p> <p>(5) 1年次から4年次にかけて段階的プログラムを構築し、自己学修の推進、達成度モニタリングなどを通して、管理栄養士資格取得に対応可能な知識と能力を涵養します。</p> <p>(6) 臨地実習を通じてコミュニケーション能力と専門的知識を応用的に実践することができる力を培います。</p> <p>(7) 授業効果調査やFD研修会等を通して、常に改善された教育方法を実践します。</p> <p>3) 評価</p> <p>(8) 健康・栄養・食に関する知識・技能・能力及び倫理的資質の修得を担保するため、4年間を通じて体系的な成績評価を行います。</p> <p>(9) 各授業科目では客観的な評価基準をそれぞれのシラバスに明記し、それに基づいて厳正に成績を評価します。</p>	<p>盛岡大学栄養科学部は、卒業認定・学位授与の方針に定める人材を、教育課程編成・実施の方針に従って育成するために必要な、下記に掲げる能力、目的意識、意欲を備えた入学者を求めます。本学部では入学者受入れの方針に合致した入学者を適切かつ多面的・総合的に選抜するために、多様な選抜方法を実施します。</p> <p>(1) 高等学校等における各種の学習内容を幅広く理解している。</p> <p>(2) 栄養科学や人間栄養学に関する高度な専門的知識を理解するために必要な、科学的思考力並びに基本的な語学力を身につけている。</p> <p>(3) 身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。</p> <p>(4) 健康・栄養・食に関する知識や経験を社会に活かしたいという目的意識と意欲がある。</p> <p>(5) 大学での学修に必要な基礎的知識を身につけるための課題に最後まで取り組むことができる。</p>

■盛岡大学 栄養科学部 栄養科学科 三つの方針（ポリシー）

栄 養 科 学 科		
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）【DP】	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）【CP】	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）【AP】
<p>栄養科学科では、124単位の単位修得と「卒業研究」を含む必修等の条件を充たし、健康・栄養・食に関する専門の知識をもち、社会の福祉に寄与する人材として、下記の力を身につけた者に対して「学士（栄養科学）」の学位を授与します。</p> <p>（1）専門的知識や技能の活用力 人間栄養学に基づいた健康・栄養・食に関する専門的知識と技能を修得し、能動的に課題を探究しながら、積極的に活用することのできる力を有する者</p> <p>（2）社会に対応した実践的応用力 社会・環境の変化や地域の特性を踏まえたうえで健康・栄養・食に関する課題を捉え、専門的知識と技能を駆使することにより、栄養管理・指導を実践する力を有する者</p> <p>（3）コミュニケーション力を基盤とする協働・実践力 健康・栄養・食に関する知識や技能を活用することのできるコミュニケーション能力を培い、他職種と連携・協働して役割を果たすことができる実践力を有する者</p>	<p>栄養科学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる力を修得させるため、教養科目、専門科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実験・実技・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連、科目内容の領域及び難易度について、カリキュラムマップや履修モデルを設け、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。</p> <p>教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。</p> <p>1) 教育内容</p> <p>（1）教養科目では、幅広い教養と基礎的技能の修得を目指し、人間性と社会性を涵養する教育を行います。「キリスト教学Ⅰ」を必修科目とし、地域社会に貢献する「愛と奉仕」の建学の精神を学び、道徳的実践力の基盤を培います。</p> <p>（2）語学科目では、国際化社会を積極的に生きるために必要な能力の向上を目指します。</p> <p>（3）専門科目では、専門関連基礎科目から卒業研究に至るまで、段階的に授業科目を配し、健康・栄養・食に関する基礎的・専門的知識や栄養管理・指導ができる能力が身につくよう、実践的かつ体系的に学びます。</p> <p>2) 教育方法</p> <p>（4）学びの力を高めるため、演習科目を中心にアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施します。</p> <p>（5）1年次から4年次にかけて段階的プログラムを構築し、自己学修の推進、達成度モニタリングなどを通して、管理栄養士資格取得に対応可能な知識と能力を涵養します。</p> <p>（6）臨地実習を通じてコミュニケーション能力と専門的知識を応用的に実践することができる力を培います。</p> <p>（7）授業効果調査やFD研修会等を通して、常に改善された教育方法を実践します。</p> <p>3) 評価</p> <p>（8）健康・栄養・食に関する知識・技能・能力及び倫理的資質の修得を担保するため、4年間を通じて体系的な成績評価を行います。</p> <p>（9）各授業科目では客観的な評価基準をそれぞれのシラバスに明記し、それに基づいて厳正に成績を評価します。</p>	<p>栄養科学科は、卒業認定・学位授与の方針に定める人材を、教育課程編成・実施の方針に従って育成するために必要な、次に掲げる能力、目的意識、意欲を備えた入学者を求めます。</p> <p>（1）高等学校等における各種の学習内容を幅広く理解している。</p> <p>（2）栄養科学や人間栄養学に関する高度な専門的知識を理解するために必要な科学的思考力並びに基本的な語学力を身につけている。</p> <p>（3）身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。</p> <p>（4）健康・栄養・食に関する知識や経験を社会に活かしたいという目的意識と意欲がある。</p> <p>（5）大学での学修に必要な基礎的知識を身につけるための課題に最後まで取り組むことができる。</p>

## ■盛岡大学短期大学部 三つの方針（ポリシー）

盛岡大学短期大学部		
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）【DP】	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）【CP】	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）【AP】
<p>盛岡大学短期大学部では、キリスト教精神に由来する建学の精神「愛と奉仕」を基本理念としつつ、学則第1条に定める「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力と幅広い教養を身につけた人材を育成し、以て広く社会の発展に寄与する」ことを目的としています。</p> <p>こうした目的のもと、本学の学位プログラムの課程を修め、所定の単位修得と必修等の条件を充たすことで、下記的能力・資質を身につけた者に対して「短期大学士（幼児教育学）」の学位を授与します。</p> <p>(1) 専門的知識や技能の活用力 自らが学ぶ学位プログラムを通じて、地域社会で必要とされる専門的知識・技術・技能を修得し、状況に応じて総合的に活用することができる能力を有する者</p> <p>(2) 地域社会の多様な背景に対応した実践的応用力 地域の人々との円滑なコミュニケーションを通じて地域社会の多様な背景や動向を理解し、地域社会の問題を発見したり、それを解決するアイデアをそこで生活する人々との連携と協働を通じて構想したりする思考力や判断力、並びにその成果を積極的に地域社会に還元する姿勢や表現力を有する者</p> <p>(3) 奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力 地域社会との共生の中で、他者に対する共感的な姿勢を涵養することを通じて、課題解決に向けて必要な論理的・実践的な知識及び社会資源を活用し、自ら主体的に実践する力を有する者</p>	<p>盛岡大学短期大学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる専門的知識や技能の活用力・地域社会の多様な背景に対応した実践的応用力・奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力を修得させるため、教養教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実技・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。</p> <p>教育内容、教育方法、評価については以下のように定めます。</p> <p>1) 教育内容</p> <p>(1) 教養教育科目は、本学の教育理念を理解するための必修科目「キリスト教概論」が配置されている「教養科目系」と「外国語科目系」「体育科目系」に区分され、学修スキルの修得に向けての基礎を培います。</p> <p>(2) 学科の専門について学ぶ専門教育科目は、卒業に関する必修科目と免許・資格を取得するための必修科目と選択科目が複合的に配置され、地域社会に貢献する実践力の獲得を目指します。</p> <p>(3) 専門教育科目を中心とする教育内容の統合と総合化のために、「専門特別基礎演習」と「専門特別演習」が設けられており、専門性をより深めます。</p> <p>2) 教育方法</p> <p>(4) 対話のある教育方法を取り入れ、行動原理として掲げる「対話のある学校」を授業においても具現化するために、各教室に整備したソリューションシステムを活用し、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を積極的に実施します。</p> <p>(5) 地域社会の課題を自己のものとして捉え、考える機会として、免許や資格を取得するための学外実習や「総合特別講座」での実習、学外でのボランティア活動を重視します。</p> <p>(6) 本学での学修の総まとめとして、各ゼミ主体で「卒業発表」を行い、外部に本学の学修成果を積極的に発信します。</p> <p>(7) 各教員の授業評価やFD研修会等を通じて、常に改善された教育方法を実践します。</p> <p>3) 評価</p> <p>(8) 卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質を担保する成績評価を行います。</p> <p>(9) 各授業科目では客観的な評価基準をそれぞれのシラバスに明記し、それに基づいて厳正に成績を評価します。</p>	<p>盛岡大学短期大学部は、学則第1条に定める人材を育成するために、本学での学修に対する目的や意欲を有し、高等学校までの学習及び経験を通じての基礎的な知識、身近な問題について自ら考え、その結果を表現できる力を身につけた入学者を求めます。具体的な内容は下記の通りです。</p> <p>また、以上のような入学者を適正に選抜するために、多様な選抜方法を実施します。</p> <p>(1) 高等学校等における各種の学習内容を幅広く理解している。</p> <p>(2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合」や「英語」を通じて、話す・聞く・書く・読むというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。</p> <p>(3) 身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。</p> <p>(4) 学びたい学科の知識や経験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。</p> <p>(5) 入学前教育として求められる、基礎的な知識を身につけるための課題に最後まで取り組むことができる。</p>

■盛岡大学短期大学部 幼児教育科 三つの方針（ポリシー）

幼 児 教 育 科		
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）【DP】	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）【CP】	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）【AP】
<p>幼児教育科では、62単位の単位修得と必修等の条件を充たし、学則第1条第2項に定める「幼児教育及び保育に関する専門的知識」をもち、「愛と奉仕」の精神を基盤とした保育者としての倫理観、子どもやそれを取り巻く人たちと関わるためのコミュニケーション能力、実践力を身につけた者に対して「短期大学士（幼児教育学）」の学位を授与します。</p> <p>(1) 専門的知識や技能の活用力 保育者に必要な豊かで幅広い専門的知識・技術・態度を修得し、多様化している現代の教育・保育・福祉の状況を多様な視点から捉え、総合的に活用することができる基礎力と実践力を有する者</p> <p>(2) 地域社会の多様な背景に対応した実践的応用力 地域社会の動向を踏まえ、その地域の児童の諸問題に対処するための課題発見力、論理的・実践的な問題解決力を有する者</p> <p>(3) 奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力 保育者として地域の人々との円滑なコミュニケーションを通じた共感的理解力、自己表現力、対人関係における調整力、及び使命感と倫理観を備え、地域社会の人々と協働して役割を果たす力を有する者</p>	<p>幼児教育科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる専門的知識や技能の活用力・地域社会の多様な背景に対応した実践的応用力・奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力を修得させるため、教養教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実技・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。そして、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得のための科目をその中に適切に配置し、保育者としての専門的知識・技術・態度を的確に身につけることができますようにします。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定めます。</p> <p>1) 教育内容</p> <p>(1) 本学の建学の精神である「愛と奉仕」の理念を学ぶ「キリスト教概論」を必修とし、地域社会に貢献する基本的な視点を培います。</p> <p>(2) 教養教育科目の「教養科目系」を通じて幅広い教養を学び、「外国語科目系」を通じて他国の文化を学び、「体育科目系」を通じて運動能力の向上について学び、地域社会で活躍するための多様な価値観や社会のもつ多様性についての理解力の向上を目指します。</p> <p>(3) 専門教育科目には、乳幼児期から学童期・青年期の子どもたちの捉え方、教育・保育の在り方、子どもを取り巻く様々な問題に対処するアプローチの仕方などを教育の視点、保育の視点、福祉の視点から学ぶ科目があり、その学びの中で保育者としての専門的知識・技術・態度の修得を目指します。</p> <p>(4) 1年次の9月から2年次の9月の間に行われる幼稚園での教育実習、保育所での実習、施設での実習、児童館での実習を通じて、実際の教育、保育、養護の在り方について実践的に学び、各実習終了後の振り返り授業の中で、保育者としての専門性を磨くことができるようにします。</p> <p>(5) 1年次前期の「総合特別講座」で、基本的なコミュニケーション能力や幼児教育の現場での基礎的スキルを学び、1年次後期から始まる各実習に備えます。</p> <p>(6) 1年次から専任教員のゼミ〔「専門特別基礎演習（1年次開講）」・「専門特別演習（2年次開講）」〕に所属し、それぞれの専門性を磨く中で現代社会の課題や問題点を発見し、その解決能力を涵養します。</p> <p>2) 教育方法</p> <p>(7) 対話のある教育方法を取り入れ、行動原理として掲げる「対話のある学校」を授業においても具現化します。</p> <p>(8) 主体的な学びを支えるために、各教室に整備したソリューションシステムを活用し、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を積極的に実施します。</p> <p>(9) 各教員の授業評価やFD研修会等を通じて、常に改善された教育方法を実践します。</p> <p>3) 評価</p> <p>(10) 学科全体として、学科の卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質を担保する成績評価を行います。</p> <p>(11) 学科における専門教育科目の成績は、それぞれの専門領域に特有な尺度に従って評価されます。</p> <p>(12) 各授業科目では客観的な評価基準をそれぞれのシラバスに明記し、それに基づいて厳正に成績を評価します。</p>	<p>幼児教育科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を探求めます。</p> <p>(1) 高等学校等における各種の学習内容を幅広く理解している。</p> <p>(2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合」や「英語」を通じて、話す・聞く・書く・読むというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。</p> <p>(3) 今日的な社会問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。</p> <p>(4) 保育者が社会に果たす使命や役割について理解し、子どもの健やかな成長に対して興味・関心をもち、地域社会に貢献しようという熱意と意欲をもっている。</p> <p>(5) 身体を使って表現すること、音楽や造形などを通じて表現性を高めたいなど、表現活動に興味と関心をもっている。</p> <p>(6) 入学前教育として求められる、基礎的知識を身につけるための課題に最後まで取り組むことができる。</p>